道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

大会後、満身創痍のBMW S1000RRに初めて跨ったのは、なんと私だった！

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

スタート前。左より34歳と若い岡村光矩選手、30回出場（最多回数）の東村伊佐三選手、長野県職員の櫻山茂昇選手。

チーム長野の縁で執り行われた車山の「単車神社」の神事。8耐の成功と全てのチーム＆関係者の安全を祈願。

「人生で一番暑かった日は」と聞かれれば、それは砂漠のラリーではなく、なんと言っても「鈴鹿８時間耐久ロードレース（通称８耐）。灼熱の７月末の鈴鹿サーキットで、選手もサポートも観客も熱中症になりそうになりながらレースを見守るのですが、１９７８年に始まったこの大会に取材やヘルパーとして１９９０年頃まで毎年関わっていました。当時は決勝日に16万人、大会期間中に37万人弱を動員し、ライダーならば一度は観てみたいというお祭りでした（ちなみに今年は3日間で4万2千人）。交代する選手が体を冷やすために入る水風呂に何度入りたいと思ったことか。そして世界耐久選手権のひとつでもあるこの8耐、盛り上がった勢いで、１９８４年から３年間、自分が監督するチームで３回も出場してしまいました。１回目は車体を軽量化したエンジン無改造車で参加するも、３回転倒して４時間弱でリタイア（改造費70万円はたぶん全チーム中最安。予選は80台中40位と優秀だったのに残念）。翌年は世界耐久レースのベテランフランス人を招待するも2度の転倒で、31位ゴール。メーカーから高価なフレームも貸与され、お金もいっぱいかけて3位以内優勝を目指していたので、ガーン。そして3年目は初心に戻って仲間と挑戦するも、予選タイムが格段にあがっていて予選落ち。面白いけれど大変さは半端ではなく、「もっと小さい単位で出来る自分の競技（砂漠のラリー）へ転向」という経緯がありました。

写真とコメント：観客の「だいすーし」さん
「メーカーやチームの垣根を超えてスタンドが白に染まった瞬間。コースに戻ってきてくれたことが、本当に嬉しかった」。

さて、２０１７年に発足し、ここ長野で地道に活動を続けているチームがあります。レースを通じて地元長野の魅力とものづくりの技術の高さを発信し、モータースポーツの楽しみと安全を伝える「信州活性プロジェクトチーム長野」。大手メーカーサポートではなく、敢えて地元企業や個人に拘り続けているプライベートチームですが、知人が多く関係していたので発足当時から知っている私としては、最近の動きが嬉しくてたまりません。県民以外でも知っている人が多くなってきたし、なにかと話題にあがることが増えてきました。トップとは別の意味で目立つ「ユニークで諦めが悪い」チーム（ごめん、言っちゃった）。弱小ながら、真剣かつ楽しそうにチャレンジし、期待通りに毎回面白いことが起きてしまうのは何故でしょう。昨年、豪雨でサーキットが川となり、止むまでコース上でおもちゃのアヒルでレースをしているところがテレビ中継されたのですが、今年はアヒルを持参したチームが増えたとか。

チーム力は過去最高の42番「チーム長野」。大会前テストで転倒負傷した東村選手も快調に順位をあげる。

今年は、予選で第一ライダーの櫻山選手が転倒鎖骨骨折リタイア。2名だけで本戦に臨み、42位から一時は27位まで追い上げたのに、残り3時間を切ったころ、岡村選手が他車と接触して時速２５０キロで転倒。奇跡的に体のダメージが少なく、すぐにマシンも戻ってきたものの、誰もがリタイアが頭に浮かびました。残り時間は2時間半。選手はどちらも負傷があり、マシンはたとえ復活してもコース上に出すにはリスク多し。ただ、35位でゴールしたのにトップから換算される周回数がわずかに足らずに完走とならなかった昨年の忘れ物を取りに来た「チーム長野」に諦める理由はありませんでした。メカはキッチリと2時間で直し、ライダーは出走へ。そしてこの奇跡の再スタートに反応してくれたアナウンサーが叫びます。「いろんなことがありすぎたチーム長野が2時間かけて直したよ！」「みんな！ライトスティックを白にして！出場30回記念の東村選手がピットを出ていくよ！マシンを直したピットクルーに労いを送ろう！」。グランドスタンドの観客が手にしたライトを白に変え、それが自分たちへのエールだと気づいたチームメンバーが号泣したことは言うまでもありません。何度観ても聴いても、泣けてきます。マシンは完璧。そして東村選手は、残り10分で戻り、転倒をおこした岡村選手に交代。「この状況で岡村がチェッカーを受けなければ、ライダーとして後悔する。逆の立場だったら同じことを考える」と東村選手。再びアナウンサーがその交代劇に触れたので、またもや号泣です。予選で骨折した櫻山選手もピットで見守る中、チーム長野は46位でチェッカーを受けました。「やったあ～！」。大きな感動を、諦めない心をありがとう！でも周回数が足りないので、当然「未完走」。しょうがない。来年は鈴鹿まで応援に行っちゃう？ なんて身も心も熱くなった今年の夏でした♪

怒涛の困難を打破したチームの要、メカニックリーダーの佐藤隆一氏（左）と代表兼監督の吉井勝行氏。またお願いね～♪

都市計画の中の街路㊲
アーケード空間の賑わい（その４）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

アーケード空間の賑わいはどのように生み出されるのでしょうか？ その問いに迫るべく、まずはアーケード空間整備の経緯を紐解いていきますが、前回とりあげた「浅草最大のアーケード商店街」の浅草新仲見世商店街に続いて、いずれも東京都内でも名高い十条銀座商店街をとりあげてみたいと思います。

十条銀座商店街は、その名の通りＪＲ十条駅の北口を降りてすぐ、東西南北に広がるアーケードを中心とした約１８０の店舗から成る商店街です。地域には関東大震災で家を失った人々が移り住むと、昭和５年に前身となる銀座一丁目会、銀座会、昭和会の３商店会が組織され、昭和13年に現在の十条銀座商店街の形にまとまります。商店街振興組合総会での議論を経て商店街にアーケードが設置されたのは、南北方向の本通りに昭和52年、この時に大理石舗装や統一看板なども完成します。また、東西通りのアーケードも続く昭和54年に完成、現在のアーケードの姿が作られます。その後、昭和60年代には、駅前横丁を「プチロード」、お富士さん通りを「フジサンロード」とそれぞれ名付けてカラー舗装や街路灯などを設置、地域全体の環境整備を進めます。その後も、街路灯のＬＥＤ化、防犯カメラやＡＥＤの設置をはじめとする環境整備事業に取り組んでいます。そして、アーケードは平成10年と平成26年には屋根の葺き替えなどのリニューアルを図りました。

一方でアーケードの維持には、とりわけ費用の点で悩まされているようで、本来であれば５年に１度は必要な屋根の葺き替えには数億円が必要とのこと、また、アーケードと店舗の隙間を埋める技術は高度で、国内でも施工できるのは数社に限られてしまいますが、各店舗独自に工事をしてしまうと雨漏りが発生することもあるとか。さらには、アーケードの柱の中を雨水が通ることで柱の腐食も進むとか、ここでは、柱が道路と民地にまたがることで権利関係も錯綜します。このあたりはアーケード商店街に共通の悩みなのかもしれません。

とは言うものの、商店街では平成15年には「十条銀座まちづくり憲章」を策定して、アーケード空間の整備をはじめとするハードだけでなくソフト両面から、また、地域の小中学校、高校や大学などとも連携しながら、商店街の賑わいづくりに力を注いでいます。

参考文献・謝辞：十条銀座商店街「十条銀座どっとこむ」（https://jujo-ginza.com）
また、インタビューにご協力をいただいた十条銀座商店街振興組合の皆様に改めて御礼申し上げます。

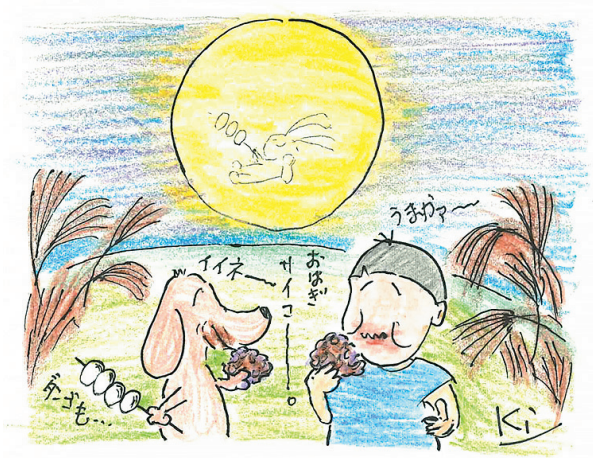
十条銀座商店街のドーム型アーケード（アーケードは平成26年の葺き替え前）

ハッと思いました

今夏は暑かったですね。残暑も厳しい日が続きますが、九月と言えばお月見。そして、美味しい月見団子とおはぎですね。

特におはぎは大好き。うるち米ともち米を半つき（どこやらの田舎では「半殺し」と言うとか）にして丸めて、周りに小豆のあんこをたっぷり纏わした・・ん～ン、よだれがぁ～。

これまたどこやらの地方では、茶碗に盛られた白飯に小豆のあんこをたっぷりのっけて食べるあんこ好きの方もおいでになるらしいですが、私はこのおはぎスタイルだから美味しく食せるのですけど。日本全国津々浦々、色々ありますね。そしてどれもが正解です。



さて、運転マナーについても、ご当地色が豊かなようで、チョイとググると、茨城ダッシュ、山梨ルール、松本走り、名古屋走り、阿波の黄走り、伊予の早曲がりなどがヒットしました。直進車より先に右折、横断歩道に歩行者がいても信号がないと止まらない、右折・左折のタイミングと同時のウインカー、黄色信号はスピードアップなど危険な運転です。こう言ったのをローカル交通ルールと言うらしいですが、これはいただけませんね。全部不正解です。交通ルールは全国統一の決まり事ですから、地方の個性は必要ありません。

十六歳で二輪車、二十歳で普通自動車の免許を取得してかなりの時が過ぎていますが、交通ルールに大きな変化はありません。変わったのは、道路の整備状況とクルマの数とクルマ本体の性能です。クルマの性能向上・安全性向上には驚くばかりですよ。やはり進化してないと言うか、むしろ退化しているのは、ドライバーと言う事に結論が導かれるのかな。